「愛には恐れがありません」　　2025 年 12 月 18 日

神は愛です。愛の内にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。このように、愛が私たちの内に全うされているので、裁きの日に私たちは確信を持つことができます。イエスが天でそうであるように、この世で私たちも、愛の内にあるのです。愛には恐れがありません。完全な愛は、恐れを締め出します。恐れには懲らしめが伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです。私たちが愛するのは、 神がまず私たちを愛してくださったからです。「神を愛している」と言いながら、自分のきょうだいを憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見える自分のきょうだいを愛さない者は、目に見えない神を愛することができないからです。神を愛する者は、自分のきょうだいも愛すべきです。これが、私たちが神から受けた戒めです。（ヨハネ 4：16b～21）

著者は、「神は愛です」と断言する。このことが著者の喜びであり、生きる意味であり、宣教の全てであった。だから、「愛の内にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます」と言う。愛の内にとどまり、神と共にあることを喜ぶ。その喜びは、主イエスの再臨による裁きの日に確信を持って、神の前に立つことができるからである。主イエスの再臨を待ち望む者は、虚無的な生き方を捨て、互いに愛し合う生き方をしようとする。終末の待望は、今、神に向かい、愛に生きようとする生き方をさせる。そして裁きの日に、主イエスを信じて生きた者が、主イエスの栄光の似姿にしていただけるという確信を持てるのは、この世において主イエスのように愛に生きているからである。終末信仰は未来への望みであるが、その望みが今の信仰を支え、導くのである。

著者は、「愛には恐れがありません。完全な愛は、恐れを締め出します」と語る。愛は相手に対する敬意を持って、結び合うことである。コロサイ書 3 章 12～14 節に、愛について下記のように書いている。「あなたがたは神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに耐え忍び、不満を抱くことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。さらに、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛はすべてを完全に結ぶ帯です。」互いに赦し合う帯で結ばれた愛には恐れがない。愛は、憎しみ、不信、高慢、怒りなどの恐れを消し去る。神と共にあることが確かであるからである。裁かれ罰せられるという恐怖の中には、結び合う愛が全うされていない。主イエスは、ヨハネ福音書 15 章 14～15 節で、「私の命じることを行うならば、あなたがたは私の友である。私はもはや、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。私はあなたがたを友と呼んだ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである」と言われた。僕は主人の命令にただ従うだけである。僕と主人とは支配と服従の関係でしかなく、僕にとって主人は恐れ以外の何ものでもない。しかし、友は信頼と愛の中で結び合っている。友である主イエスを通して、父なる神の心を知らされた。私たちが互いに愛し合うのは、主イエスが私たちを友として、まず愛してくださったからである。だから、「神を愛している」と言いながら、きょうだいを憎む者は偽り者である。目の前にいるきょうだいを愛さない者は、目に見えない神を愛することはできない。神を愛する人はきょうだいを愛する。見えない神への愛は隣にいる見える人を具体的に愛する愛と直結している。著者は、「これが、私たちが神から受けた戒めです」と説いている。